

スナメリ *Neophocaena asiaeorientalis* (Pilleri et Cihir)

【選定理由】

国内には形態的・生態的・遺伝的に個別の特徴を持つ個体群が5海域に存在するとされ (Shirakihara & Yoshioka, 2015)、県内のスナメリは伊勢湾・三河湾に生息する小個体群に属する。1991～1994年の調査結果で1,900頭と推定されたが (宮下ほか, 1994)、1,000頭を割り込む可能性もあり、漁業による混獲、水質汚染・埋め立てなどの環境悪化が個体数を減少させると考えられる。

【形態】

体重45kg前後、体長は通常雄で180cm以下、雌で164cm以下であるが、まれに200cm前後に達する個体もある。背ビレはないが、背中中央から小さい隆起が尾ビレに向かってあり、上・下顎の片側に13～22対のスペード状の歯を持つ。胸ビレは比較的大きく、体長の約1/6、尾ビレも大きく、その幅は体長の約1/4。流線型の体をしているが、マイルカやオオギハクジラのような「くちばし」はもたない (子安・織田, 2009など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市の港区名古屋港・熱田区堀川、常滑市、半田市、美浜町、南知多町、碧南市、西尾市、豊川市、蒲郡市、豊橋市、田原市 (田口ほか, 2007; 保尊ほか, 2008; 子安・織田, 2009; 栗原ほか, 2013; 齋藤ほか, 2014; 野呂, 2015)。

【国内の分布】

西九州・瀬戸内海、門司から能登半島までの日本海沿岸と、紀伊水道から仙台湾までの太平洋沿岸域 (粕谷・宮崎, 1997)。

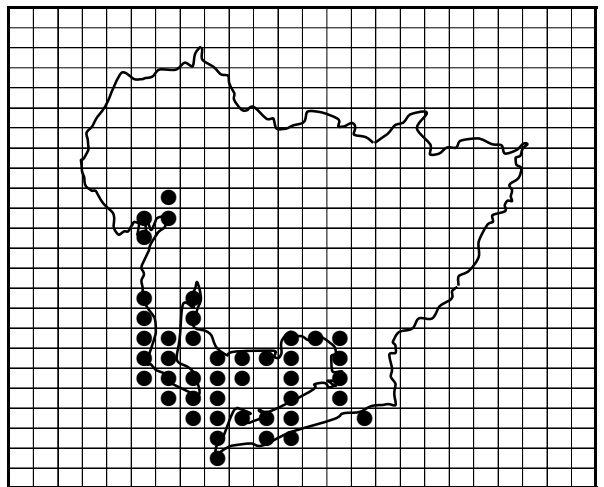
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国、東南アジア、インドの各沿岸域と汽水域。

【生息地の環境／生態的特性】

沿岸性が強く、海岸からほぼ5～6km以内の浅いところを好む。10頭以上の群をつくることもあるが通常は1～3頭で遊泳する姿が漁船・フェリーなどから目撃される。三河湾東部におけるストランディングは春期と秋期に増大する (保尊ほか, 2008; 長谷川, 2008; 子安・織田, 2009など)。名古屋市の港区名古屋港沖で目視される個体数は冬季に最も多く、夏季に少ない。これは火力発電所の温排水の影響で冬季に餌となる小魚が集まるためと考えられている (齋藤ほか, 2014)。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県の南方に広がる伊勢湾・三河湾は、国内における本種の主要な生息海域のひとつとして知られており、宮下ほか (1994) は1991～1994年の調査結果から同海域の生息数を1,900頭と推定している。漁業での混獲と汚染・埋め立てによる生息環境の悪化が個体数減少の要因と考えられる。

【保全上の留意点】

定置網、巻網、トロール、流し網、底刺し網などによる混獲が指摘されている (粕谷・宮崎, 1997)。生息数の推定値の精度を上げ、その変動傾向や要因の調査研究を行い、混獲の影響や有機塩素化合物などの体内蓄積など環境悪化の影響を評価して保全対策をはかる必要がある。沿岸海域における大規模な埋め立て工事の際には、スナメリ個体群の保全対策とモニタリングが必要である。

【特記事項】

北緯40度～南緯40度の海域で捕獲禁止 (水産資源保護法施行規則)。水産庁 (2017) レッドリスト外。出村 (1921) は南知多町の篠島周辺で「鯨砂滑等は今尚近海に出没せり」と述べ、三河湾でのスナメリや他のクジラ類の生息を記述している。1939年に野間灯台 (現美浜町小野浦岩成) 付近に漂着して「ジュゴン」とされた動物 (高島, 1952) はスナメリの幼獣であったことが示されている (保尊ほか, 2010)。種の保存法による国際希少野生動物種。化石は、瀬戸内海の後期更新世から出土している (Shirakihara & Yoshioka, 2015)。

【引用文献】

長谷川修平, 2008. 伊勢湾におけるスナメリのストランディング. 勇魚, (48): 25-32.  
保尊 脩・子安和弘・織田鉄一, 2008. 愛知県三河湾におけるスナメリのストランディング記録6. マンモス特別号, (10): 53-57.  
保尊 脩・曽根啓子・子安和弘, 2010. 愛知県におけるジュゴンの報告について. マンモス特別号, (12): 12-16.  
出村 鉄, 1921. 篠島史蹟, 151pp. 博信社, 名古屋市.  
粕谷俊雄・宮崎信之, 1997. クジラ目 CETACEA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.139-185, 221-233. 文一総合出版, 東京.  
子安和弘・織田鉄一, 2009. スナメリ. レッドデータブックあいち 2009動物編, p.88. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
栗原 望・大池辰也・川田伸一郎・子安和弘・織田鉄一, 2013. 三河湾におけるスナメリ (*Neophocaena phocaenoides*) の漂着ならびに混獲に関する記録. 哺乳類科学, 53: 99-106.  
宮下富夫・島田裕之・帝釈元・浅井康行, 1994. 伊勢・三河湾におけるスナメリの密度とその季節変動. 平成6年度日本水産学会秋季大会講演要旨, p.58. 三重大学, 津市.  
野呂達哉, 2015. スナメリ. レッドデータブックなごや 2015動物編, p.44. 名古屋市環境局環境企画部, 名古屋.  
齋藤 豊・室崎正博・祖一誠, 2014. 名古屋港に生息するスナメリの調査. 海洋と生物, 36(1): 29-35.  
Shirakihara, M. & Yoshioka, M. 2015. *Neophocaena asiaeorientalis* (Pilleri & Cihir, 1972). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.258-259. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.  
水産庁, 2017. 海洋生物レッドリストの公表について. <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/170321.html>  
田口美緒子・吉岡 基・柏木正章, 2007. 三河湾湾口部におけるスナメリの分布密度の季節変化. 哺乳類科学, 47: 11-17.  
高島春雄, 1952. 日本近海におけるジュゴンの1例. 日本哺乳動物学会報, (3): 5.

(子安和弘・織田鉄一)